

9章 コラボレーションと プレゼンテーションによるグループ学習 1

授業形態の見直し

- 黒板を媒介とした授業形態 (上意下達式)

↓ (情報技術の進歩)

- コラボレーション
- プレゼンテーション

↓

グループ学習

コラボレーション (p92)

- コラボレーション (collaboration)
 - 共同作業, 共同研究
 - 情報教育では → 協働(共働)作業
- 筆者の定義
 - 複数の人間による活動であること
 - 達成すべき共通の到達目標があること
 - 到達目標には「よりよい」という条件が付くこと
 - 到達目標は構成員による意思決定の過程を経て達成されること
 - 各々の構成員が役割分担と責任意識をもてること

コラボレーションの動き (p93)

- 従来

- 学校**教育の特色**や方針に重点
- 計画的・継続的に実施されていない
- **単発的**
- 教員の意思が強い

- 最近

- 100校プロジェクト
(<http://www.edu.ipa.go.jp/100school/>)
- メール交流, CuSeeMe, Phenix
- **webページ**, コンテスト (ThinkQuestなど)

プレゼンテーション (p94)

- プレゼンテーション (presentation)
 - 上演、贈呈
 - 情報教育では → 資料を提示しながら行う**わかりやすい発表・報告**
- 筆者の定義
 - **資料と人声を併用**した報告・発表形態であること
 - 聴衆を**説得・納得**させるためのものであること
 - 資料はできるだけ**客観的**なものでなくてはならないこと

学校教育における プレゼンテーションの動き

- 従来

- クラス代表や有志による**単発的**な発表
- 授業ですべての生徒に修得させるべきものでない

- 最近

- パワーポイントの普及
- 簡単に**効果的な資料提供**が可能
- 資料冊子やOHPシートなどの手間が不要
- **成果物の発表手段**

コラボレーションの位置づけ (p95)

- 普通教科「**情報**」における展開
 - 図9.1 参照
 - **実習**をするためのアプリケーションソフト
 - 自己紹介の例 (図9.2参照)
- 「**総合的な学習**」における展開
 - **教科横断的**なテーマ (福祉、環境、情報、国際関係)
 - チームティーチング
 - **地域とともに歩む時代**

留意すべき点 (p98)

- 成果の発表・評価の場をつくること
 - コンクール形式、表彰
 - 教員のみならず生徒による評価
- いろいろな規模のコラボレーションの併用
 - 校内、校外
 - 短期的、長期的
- 作業進行、役割分担、責任意識のイメージ
 - 図9.3参照

留意すべき点 (p99)

- 目的と技術をあらかじめ教えておく
 - 原稿の棒読み
 - はでなアニメーション
- コラボレーションへの誤解
 - コラボレーション = インターネット ?
 - プレゼンテーション = PowerPoint ?
- 教員の創造性と意欲
 - 教員の負担は多大